

令和5年度の学校評価

本年度の重点目標	<p>【重点目標1】安全で安心な教育環境の整備</p> <p>【重点目標2】幼児児童生徒一人一人の実態や、最新の教育事情に即した授業改善</p> <p>【重点目標3】将来を見据え、幼小中高の各部が連携し、一貫した指導の実践</p> <p>【重点目標4】働き方改革の更なる推進</p>		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
幼稚部	<p>幼児一人一人のねらいに応じた環境設定について検討し、主体的に活動しながら目標を達成できる活動を工夫する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の活動量や内容、支援の方法が適切か、計画立案時に職員で検討、確認する。 ・幼児が自分で考える、選ぶ、決める場面を多く設定できるよう、余裕のある計画を心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を確認する際には、幼児の発達段階に応じた内容になっているか、最新の教育事情に即しているかを意識する。 ・行事については事前事後学習も含めて、活動時間や内容を検討し、計画する。併せて職員の業務改善の視点をもつ。
小学部	<p>子ども間での会話や、話し合いができる環境の工夫をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や遊び、行事の準備などの活動の中で意見を伝えたり、話し合いをしたりする機会を設定していく。 ・会話や話し合いに使用できる掲示物や教材の工夫をし、活用できるようにしていく。 ・挨拶を自分からすることを促していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉や表現を新たに学び、活用できるように、担任だけではなく関わる職員で協力して取り組む。 ・興味関心を広げられるような情報を掲示し、掲示内容を話題にしたり、掲示物を介して児童と職員、児童同士がやりとりできるようにしたりして職員が意識的に働きかける。 ・子どもや大人への挨拶を気持ちよく行っていく。
中学部	<p>生徒自身が自ら考え、行動を起こそうとする意欲を喚起するような支援を生徒一人一人の実態やニーズに応じて行う。</p> <p>多忙化解消に向けて、行事の精選や見直しを進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートを積極的に活用し、一人一人の生徒が今の自分を見つめ直し、将来に向けて必要な内容を選択できるように支援する。 ・次年度以降、生徒数の減少に対応できる行事の在り方について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携を密接にしつつ、一人一人の生徒の思いと保護者の願いが同じ方向を向かうように支援する。 ・これまでの方法にとらわれず、行事の目標を達成するために必要な項目を優先するという観点で検討する。
高等部	<p>安心で安全な環境を維持し、感謝の心を育む。</p> <p>自ら生き方を選び、進んで社会に参加しようとする生徒を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部集会を毎週、木曜日の授業後行い、今週感じた幸せを発表し、みんなで共有する。 ・キャリア教育や校外活動を通して社会に参加する機会を設け実践を通して育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表された幸せの中で見逃されてしまいそうな小さな幸せにも目が届くように取り上げていく。 ・教育課程ごとに機会を設け、弾力的に扱う。
総務部	<p>新型コロナウイルス感染症対策の転換期における安心して参加できる式典の実施や、効率的な働き方を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・式典については、感染症に関する衛生管理マニュアルに基づき、必要な対策を講じながら計画、実施する。 ・ICT支援員制度を活用して業務の効率化を図ったり、繁忙期が集中しないような仕事の進め方を計画したり 	<ul style="list-style-type: none"> ・マスク着用や国歌・校歌の斉唱など、感染症に関する衛生管理マニュアルに基づいて式典を実施する。ただし、感染が拡大している場合や、熱中症対策も含め、必要に応じて管理職と実施方法について相談し、状況に合わせた対策を講じる。 ・仕事量が一部の職員に偏ったり、それにより他の業務が滞ったりすることがない

		する。	ようにする。
教務部	<p>教科学習等において、部間の連携や指導体制の工夫に取り組む。</p> <p>新校務支援システムへのスムーズな移行ができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 部間の連携や指導内容・方法・評価などの改善に取り組むために、部を超えた指導体制を整えたり、教科担当で話し合う機会を設ける。 情報部と連携を取りながら、諸帳簿作成、成績処理等を行えるように、準備や対応ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 中、高等部の教科担当の渡りが多いため、時間割管理を一元化し、考慮に入れた時間割表を作成する。その他の連携についてもできる範囲で検討実施をする。 マニュアルのデータを手元でも見られるようにフォルダにまとめたり、印刷したりしておく。
情報部	<p>GIGAスクール構想に沿って、これまでの教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、授業や業務の改善に生かす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ICTツールや新校務支援システムが有効に活用できるように整備し、学習指導や業務改善に生かせるように働きかける。 ICT教育の充実を図り、児童生徒が様々なICTツールを学びに活かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 参考資料に図や写真などを載せて、ポイントが明確に伝わるようにする。ミニ研修などを通して、最先端のICTを日常的に使うことができるようにしていく。 児童生徒用アカウント利用時の留意点をまとめ、様々なICTツールを適切に扱えるようにする。
指導部	<p>児童会生徒会を中心とした、子どもたちの主体的・積極的に活動に参加できる環境を整える。</p> <p>いじめ・不登校などの課題の早期発見と早期対応に加えて発達段階に合わせた予防教育に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各行事において主体的に企画運営ができる環境づくりを行い、子ども達自身の活動の場を広げる。 学校生活アンケートを適切に活用して早期発見・早期対応に取り組む。 日頃の子どもたちの変化や予兆を見逃さないようにするとともに、予防的観点による指導・支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児児童生徒の関わりがもてるよう工夫して企画できるよう幼小中高の連携を図る。 本校のいじめ防止基本方針に則った組織的な対応を行い、SC・SSWなどの専門機関の活用を含めて支援の幅を広げていく。 定期的・継続的に面談を行い、子どもたちが話しやすい環境を整えることで心理面の支援を充実していく。
保健体育部	<p>発達段階に応じた、健康面や安全面における専門性の高い支援をすることで、生活習慣と関連付けた健康づくりを目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 感染症をはじめ病気の正しい知識とけがの予防で安全で安心な学校生活を送れるようにする。 食事に対する関心を高めることで、生活習慣の改善に結び付けられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策、熱中症予防など適切な情報を発信する。 危険予知に向けた環境整備に心がけ、緊急時の対応やヒヤリハットなどの情報を共有する。 日頃の点検や整理整頓を心掛け、安全面や健康面における環境整備をする。 食事の大切さを学校内外に発信し相互理解を得られるようにする。 発達段階に応じた講演会を設定して、より専門性の高い知識や一貫性が得られるようにする。
進路指導部	<p>幼稚部段階から将来を見据え、発達段階に合わせたキャリア教育を推進できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポートを活用し、自分の進路についての考えの変化や自分の成長に気付くことができるようにする。 全校保護者や教職員に対して、キャリア教育や進路指導に関する的確な情報提供を 	<ul style="list-style-type: none"> 他校の取組を参考にし、キャリアパスポートの形式やキャリア発達段階表の見直しを適宜行う。 保護者向けの進路相談期間で個別に情報提供したり、グループウェアを活用して職員に情報を発信したりする。

		行う。	
研修・ 自立活動部	研修や校内研究の内容や実施方法を工夫しながら充実を図り、聴覚障害教育の専門性を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 聾学校教員として専門的な指導ができるような研修を設定したり、情報を発信したりする。 校内研究での取組を学校全体で共有し、授業改善や日々の指導に生かすため、各研究班の記録を周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> 聴覚障害教育の専門性について教員間での共通理解を図る。専門知識や技術の継承ができる研修を計画し、継続した指導につなげる。 授業や家庭で活用できる「自立活動だより」を作成する。 東聾研を兼ねた校内研究（3年継続）が見通しをもって進められるように推進する。研究や研修の取組を学校全体で共有するため、「研修・参考資料」フォルダの活用を図る。
教育支援部	地域の学校や関係機関との連携を密にし、校外及び校内の幼児児童生徒に対して専門性の高い教育環境の整備を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 聴覚障害教育担当職員研修会や事業所との連絡会、聴覚支援便りの配付、難聴理解授業などの活動を継続、改善をする。 聴覚障害教育に関する基本的な事項や必要な環境整備などについて校内にも発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に対する研修会や連絡会は、ニーズに応じた内容で行うことができるようにする。また、本校の活動を定期的に発信し、積極的に関わっていくようにする。 校内の職員のニーズを受け、研修・自立活動部や各部と連携して支援にあたる。
寮務部	寄宿舎生活を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 自治会活動や行事の計画、運営を通して、問題や解決方法などを話し合えるようにする。 寄宿舎でよりよい生活を送るために達成すべき目標を定め、目標を達成するための手立てを寄宿舎指導員と舎生で話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの舎生が役割をもって自分の意見を話せるように、係や司会などの役割を分担する。 課題や指導方法などを、寄宿舎と担任、各部で共通理解を図る。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ol style="list-style-type: none"> 1 幼児児童生徒の実態に合った教育環境を整備し、安心できる環境の中で、積極的に充実した生活を送ることができるようにする。 2 各部の育てたい子ども像を意識し、聴覚障害教育の専門性が高く、令和の日本型教育に即した授業改善に取り組む。 3 幼児児童生徒自身が「わかる」「できる」「楽しい」だから「やってみよう」と次の目標に向かえるように、幼小中高が連携をとり、一貫した教育を推進する。 4 学校生活アンケートを適切に実施、活用し、いじめの早期発見や児童生徒の心理面の支援を充実する。 5 愛知県立学校の教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則の方針に基づき、在校時間を客観的に把握し、効率的で計画的に業務を進められるように校務の業務の見直し、整理を行う。 	